

2024年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	☒ 一般入試 ☐ 外国人留学生特別入試 ☐ 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	専門試験（ 日本古典文化論 ）
出題の意図	問題一は日本文学・日本文化研究に関わる分野から、その文学史・文化史的、あるいは国語史的問題に関する理解と知識を質すと共に、文章読解能力及び文章表現能力も併せ見るものである。 問題二は日本古典文学研究における最も根本的な作品読解能力を問うものである。また、原資料を取り扱う能力を見るために変体仮名の翻字も課す。 問題三は日本古典文学研究に必要なかつ重要な能力である漢文読解能力を問うものである。

2024年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 日本古典文化論 全4枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 4枚、解答用紙 3枚を配付する。

問題一

次の文章は古橋信孝『平安期日記文学総説 一人称の成立と展開』の一節である。読んで設問に答えよ。

*問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、左記の出典箇所を参照するか、文学事務部教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 古橋信孝『平安期日記文学総説 一人称の成立と展開』（臨川書店、二〇一八年、五五～五八頁）

- 問一 二重傍線部「具注暦」とはどのような形態や特徴を持つものか。できるだけ具体的に説明せよ。
- 問二 傍線部について、どのような「言語遊戯」や「諧謔表現」があるというのか、それぞれわかりやすく説明せよ。
- 問三 文章を讀まえて、「ひらがな体」もしくは「日記文学」について、各自の観点から自由に論じよ。

問題二

次の文章は、『伊勢物語』(天福本) 第八十七段の前半部である。読んで設問に答えよ。

昔、男、津の国、菟原^{むはら}の郡、蘆屋の里に、しるよしして、行きて住みけり。(中略) この男、Aなま宮仕へしければ、それを頼りにて、衛府^{えふ}の佐ども集まり来にけり。この男のBのかみも衛府^{えふ}の督なりけり。その家の前の海のほとりに遊びありきて、「いざ、この山のかみにありといふ布引の滝、見にのぼらむ」と言ひて、のぼりて見るに、その滝、Cものよりことなり。長さ二十丈、広さ五丈ばかりなる石のおもて、白絹に岩をつつめらむやうになむありける。さる滝のかみに、蘆座^{あしざ}の大ききして、さしでたる石あり。その石のうへに走りかかる水は、小柑子^{ちかろうじ}、栗の大きさにてこぼれ落つ。そこなる人に、みな滝の歌よます。かの衛府の督、まづよむ、

なまきりもあそび
ふたなりまにふたなり

あるじ、次によむ、

ぬき乱る人こそあるらし白玉のまなくも散るが袖のせばきに
とよめりければ、かたぐの人、笑ふことにはありけむ、この歌にめでそやみにけり。

問一 傍線部 A・B・C を現代語訳せよ。

問二 波線部を品詞分解せよ。

問三 変体仮名の部分を翻字せよ。

問四 二重傍線部の理由を説明せよ。

問五 『伊勢物語』の文学史上の意義について述べよ。

問題三

次の文章は『晋書』仏図澄伝の一節である。読んで設問に答えよ。

季龍造太武殿初成、図画自古賢聖・忠臣・孝子・烈士・貞女、皆變為胡狀。旬余、頭悉縮入肩中、惟冠髻髣髴微出。季龍大患之、祕而不言也。澄对之流涕、乃自啓塋墓於鄴西紫陌。還寺、^A（中略）謂弟子法祚曰、「戊申歲禍乱漸萌、己酉石氏当滅。吾及其未乱、先從化矣」。卒於鄴宮寺。^B後有沙門從雍州来、称見澄^C西入関。季龍掘而視之、惟有一石而無尸。季龍患之曰、「石者朕也。葬我而去。吾将死矣」。因而遇疾。明年、季龍死。遂大乱。

注 仏図澄 五胡十六国時代の中国北朝に渡来した西域僧（？）三四九）。後趙の初代皇帝石勒に重用され、第二代石弘から帝位を篡奪して第三代皇帝となった石虎（季龍）の代に卒す。

胡状 異民族の姿。

髻 頭頂のたぶさ。もとどり。

塋墓 はか。

鄴 後趙の都のあつた地。

紫陌 都にある道。

雍州 中国北西部、西域への入口に存在した州。

問一 傍線部 A を平仮名のための書き下し文に改めよ。

問二 傍線部 B をわかりやすく訳せ。

問三 傍線部 C について、季龍がこうに言った理由を説明せよ。